

藤田医科大学

2021 年度

第 2 回アセンブリ教育ワークショップ

テーマ：

「災害発生後の対応

ーアセンブリ教育における

実現可能な教育プログラムの作成ー ②」

2021 年 8 月 6 日（金）

合同校舎 6 階 608 講義室・Teams

はじめに

2021 年 7 月 11 日に開催したアセンブリ教育ワークショップに続いて、2022 年度以降のアセンブリⅡのテーマとなる「災害時における社会貢献ー避難所における貢献ー」に焦点をあてた意見交換を行います。本日のワークショップにも、拡大アセンブリ教育センター会議のメンバー（学生を含む）と 3 学部の防災委員が中心となって参加されます。また、本日も豊明市の**牧野玲様**がコメンテーターとして参加してください。

藤田医科大学災害対応拡張プロジェクトリーダーの金田副学長の挨拶、センター長からの説明に続いて、参加者の皆さんは 10 グループ（A～K）に分かれて、7 月 11 日に開催したワークショップにおける Group Work2、則ち、「藤田が避難所となった場合、我々に何ができる（**can**）か？何をすべき（**must**）か？藤田の強みを生かした can、社会が藤田に期待する must を考えよう！」で抽出された"can-must"を、「学生が実行(do)できるようになるために、アセンブリ教育の内容にどう落とし込めばいいか」についての小グループ討議を行います。各グループは①**トイレ**、②**健康管理・メンタルヘルス**、③**傷病者対応（軽症者）**のいずれか 1 つのテーマを担当します。具体的なアイデアをいっぱい出してください。最後に、優秀グループの表彰（賞品付き）もあります。

2022 年度のアセンブリⅡにおいて、学生は避難所における貢献を通して**チームワーク**を身につけます。教職員の皆様は、ワークショップに参加した経験を生かして、学生の指導・支援にご尽力ください。また、本日参加された学生さんは後輩のために忌憚ない意見をお寄せください。

アセンブリ教育センター長
大槻 眞嗣

第2回アセンブリ教育ワークショップ

【スケジュール】

アセンブリ教育WS 2（8月6日〔金曜日〕） 進行表		
		会場：合同校舎6階608講義室・Teams
災害発生後の対応 –アセンブリ教育における実現可能な教育プログラムの作成– ②		
目標	アセンブリ教育WS1で抽出された"can-must"を、学生が実行(do)できるようになるために、アセンブリ教育の内容にどう落とし込めばいいかを考える	
時刻	時間	内 容
13:00	30分	受 付
Opening		
13:30	20分	金田嘉清副学長・藤田医科大学災害対応拡張プロジェクトリーダー 挨拶 大槻眞嗣アセンブリ教育センター長 挨拶 記念写真 前回の振り返り
Group Work		
13:50	70分	アセンブリ教育WS1で抽出された"can-must"を、学生が実行(do)できるようになるために、アセンブリ教育の内容にどう落とし込めばいいかを検討し、アイデアを出し合う 藤田ならではの"can-must"を、実行(do)できる学生を育成しよう！ *E1~3における実際の活動内容に結び付けられるような小テーマをできるだけたくさん考える
15:00	10分	(休憩)
Presentation&Discussion		
15:10	70分	発表 & ディスカッション
Closing		
16:20	10分	まとめ 総括 アンケート記入 修了証授与 閉会の辞
16:30		終了

第2回アセンブリ教育ワークショップ

【参加者一覧】

センター	所属		氏名	グループ
センター長	医学部	医学科	大槻 真嗣	★
副センター長	医療科学部	医療検査学科	市野 直浩	★
戦略企画	保健衛生学部	看護学科	朝居 朋子	★
戦略企画	保健衛生学部	リハビリテーション学科	渡哲 郎	★
戦略企画	医療科学部	医療経営情報学科	村田 幸則	★
副センター長	医学部	医学科	古澤 彰浩	A
I	保健衛生学部	看護学科	明石 優美	A
I	医療科学部	放射線学科	堀内 ちとせ	A
II	医学部	医学科	中川 聡	A
I	医療科学部	医療検査学科	大江 瑞恵	B
III	医療科学部	放射線学科	梅沢 栄三	B
III	保健衛生学部	看護学科	宮本 美穂	B
副センター長	保健衛生学部	リハビリテーション学科	西井 一宏	C
II	医学部	分子腫瘍学	水谷 泰嘉	C
IV	保健衛生学部	看護学科	織田 千賀子	C
医療科学部事務	学務部	医療科学部学務課	野村 拓央	C
副センター長	保健衛生学部	看護学科	中村 小百合	DI
II	医学部	地域医療学	田口 智博	DI
II	医療科学部	医療検査学科	平山 将也	DI
II	保健衛生学部	看護学科	北村 真弓	DI
IV	保健衛生学部	リハビリテーション学科	会津 直樹	DI
副センター長	保健衛生学部	看護学科	三吉 友美子	E
II	医療科学部	放射線学科	水谷 謙明	E
情報技術	医療科学部	医療経営情報学科	堀場 文彰	E
学生支援課事務		学生支援課	林 淳平	E
I	保健衛生学部	リハビリテーション学科	米本 倉基	F
I	保健衛生学部	看護学科	皆川 敦子	F
II	医学部	生化学	林 孝典	F
I	保健衛生学部	リハビリテーション学科	粟飯原 けい子	G
II	医療科学部	放射線学科	南 一幸	G
III	医学部	医学科	太田 充彦	G
医学部学生代表	医学部	医学科	大森 万梨子	G
I	医学部	解剖学Ⅱ	深澤 元晶	H
II	保健衛生学部	看護学科	梅村 慶子	H
III	保健衛生学部	リハビリテーション学科	伊藤 美保子	H
I	保健衛生学部	リハビリテーション学科	清野 湊	J
II	保健衛生学部	リハビリテーション学科	三浦 恵二	J
IV	医療科学部	臨床検査学科	大橋 鉦二	J
保健衛生学部事務	学務部	保健衛生学部学務課	吉田 美佳	J
I	医学部	医学科	若月 徹	K
IV	医療科学部	放射線学科	小林 正尚	K
庶務課事務		庶務課	服部 啓介	K
医学部事務	学務部	医学部学務課	中西 紗也加	K
センター事務	学務部	アセンブリ教育センター	松岡 透	事務
センター事務	学務部	医学部学務課	井上 敬子	事務
		ビジュアルセンター	工藤 悠希	撮影
		ビジュアルセンター	田島 武志	撮影

第2回アセンブリ教育ワークショップ

【Opening】金田 嘉清 副学長・藤田医科大学災害対応拡張プロジェクトリーダー 挨拶



【センター長挨拶】 アセンブリ教育における防災教育・防災学修



 **FUJITA HEALTH UNIVERSITY** 藤田医科大学
Copyright © 2010 FUJITA HEALTH UNIVERSITY. All Rights Reserved.

FUJITA HEALTH UNIVERSITY Copyright © 2015-2020 FUJITA HEALTH UNIVERSITY All Rights Reserved



アセンブリ III

患者中心の考え方を身につける！

患者・家族への共感



「どのような人が病んでいるか」

アセンブリ II

チームワークを身につける！

① チームの目標

② 主体的行動

③ 振り返り



湯澤学長のお言葉

1. アセンブリ教育とボランティア活動を区別する。
2. アセンブリ教育は、学部横断的な防災教育・防災学修に取り組む。(防災委員会と一緒に)
3. 大学病院の防災を理解した上で、防災教育を計画する。

アセンブリ II (チームワークを身につける)

1. 2022年度アセンブリ II のテーマを「防災」として、新しいプロジェクト活動を開始する。
2. ワークショップのプロダクトをアセンブリ II で実施する。
3. ワークショップのプロダクト以外も追加する。
(震災以外の災害、例えば、コロナ対策など)

第2回アセンブリ教育ワークショップ

【Group Work】

Group Work の様子



第2回アセンブリ教育ワークショップ

【Group Work】発表&ディスカッション

A チーム (Web)：テーマ2) 健康管理・メンタルヘルス

声かけとそれから派生する活動

- 強いストレスに晒された人の反応の事例集
 - ・強いストレス環境下での話し方、行動を調べる

■声かけ事例集

- ・声かけ事例（良い例、悪い例）を集める
- ・言ってはいけない言葉を集める
- ・使える言葉を調べる

→・状況別声かけ例文集の作成

- ・声かけからニーズを掘り起こす方法を検討する
(ワークシート、チェックシート作り等)



- ・プライベート空間の確保

- ・避難所マネジメント

事例集め

プライベート空間の要求スペック、サイズ調べ

避難所の計画、設計

■運用方法検討

- ・ケース別マニュアル作り

■試行・練習

- ・シナリオ作り
- ・ロールプレイマニュアル作り

災害の種類別に複数プロジェクトとして展開

新規作成と旧作を使った運用検討を並行する

声かけとそれから派生する活動

強いストレスに晒された人の反応の事例集
強いストレス環境下での話し方・行動
を調べる

声かけ事例集

声かけ事例（良い例、悪い例）
を集める
言ってはいけない言葉調べる
使える言葉を調べる



状況別声かけ例文集

声かけ例文集

声かけからのニーズの掘り起こし
声かけで得られた情報を整理するための
ワークシート、チェックシート作り
健康管理チェックシート作り

運用方法検討

ケース別マニュアル作り

試行・練習

シナリオ作り
ロールプレイマニュアル作り



プライベート空間の確保
避難所マネジメント

事例集め

プライベート空間の要求スペック・サイズ調べ
避難所の計画・設計

災害の種類別に複数プロジェクトとして展開
新規作成と旧作を使った運用検討を並行する

B チーム：テーマ3) 傷病者対応

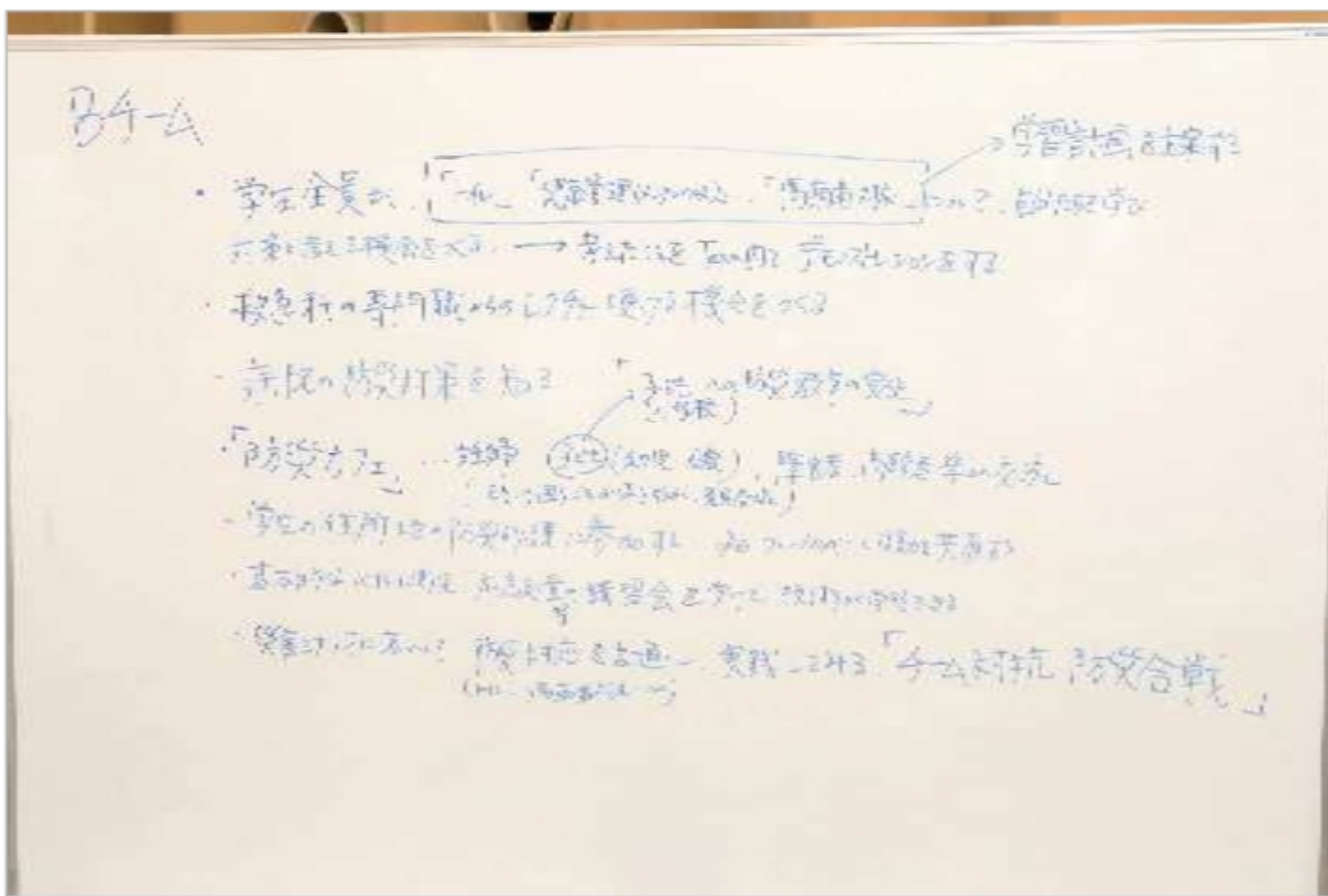


■傷病者対応に知識が必要

- ・救急科専門職からレクチャーを受ける機会をつくる
→基本的なバイタル測定・応急処置等の講習会を受け技術が学習できる
- ・病院の防災対策を知る

■プログラム

- ・学生全員が「トイレ」「メンタルヘルス」「傷病者対応」について、自分達で学び対策を考える
→学習計画の立案
- ・＜防災カフェ＞
妊婦、子供、障害者、高齢者等との交流
→子供への防災教育の実施
- ・災害シナリオに基づいて、防災対応を計画し、実践してみる＜チーム対抗防災合戦＞



Cチーム：テーマ1) トイレ設営



■マンホールトイレ、仮設トイレ等が使用可能な場合

- ・安全に、清潔に使用するには
- ・子供、障害者、高齢者が使用し易くするには

■使用不可能な場合

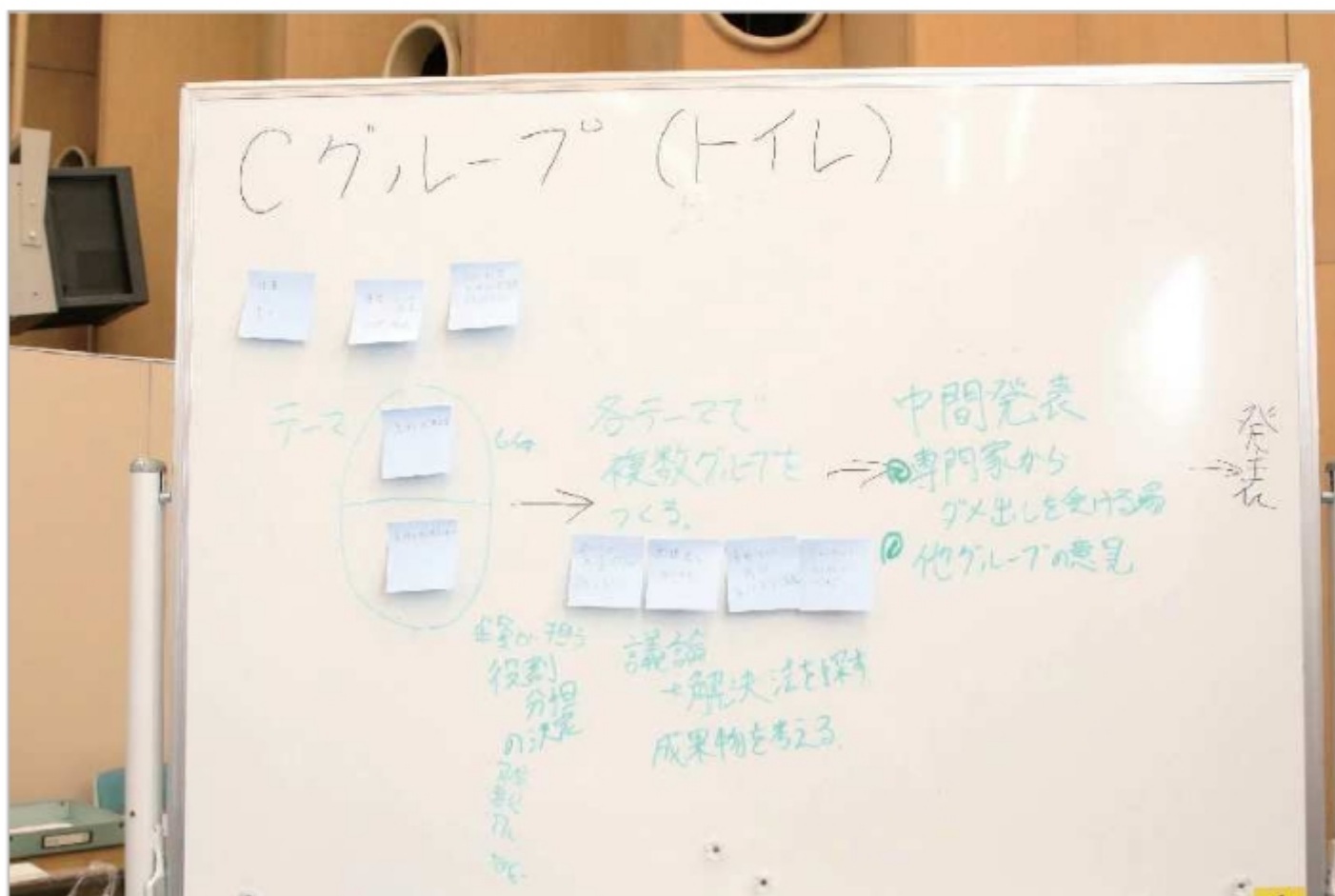
- ・トイレ代用品の検討
- ・汚物処理方法

<6人グループ編成>

ルール

- ・司会・書記等の6つの係を全員が毎回担う

- ①事例の共通理解
 - ・相互に学び合い、わからないことを解決
- ②トイレに関する課題をリサーチ
- ③実現可能な課題解決のテーマ決定
- ④解決方法を探す、成果物を考える
- ⑤グループ同士でディスカッション、振り返り
- ⑥中間発表
 - ・他グループの意見
 - ・専門家からダメ出しを受ける
- ⑦成果発表・評価（専門家より講評）



DI チーム：テーマ2) 健康管理・メンタルヘルス



①健康チェック

<健康管理シートの作成>

- ・バイタルサインチェック
- ・身体、精神状態（ストレス・不安）
- ・チェック項目と自由記載（不安・困っていること）
- ・聴取者の印象（要注意かどうか）

→問題があれば傷病者対応や専門家へ

②声かけ対応

<声かけ対応マニュアルの作成>

- ・対象者別に作成（健康状態、年齢、国籍等）
- ・声かけ内容、反応、自己評価を記載

[学生]

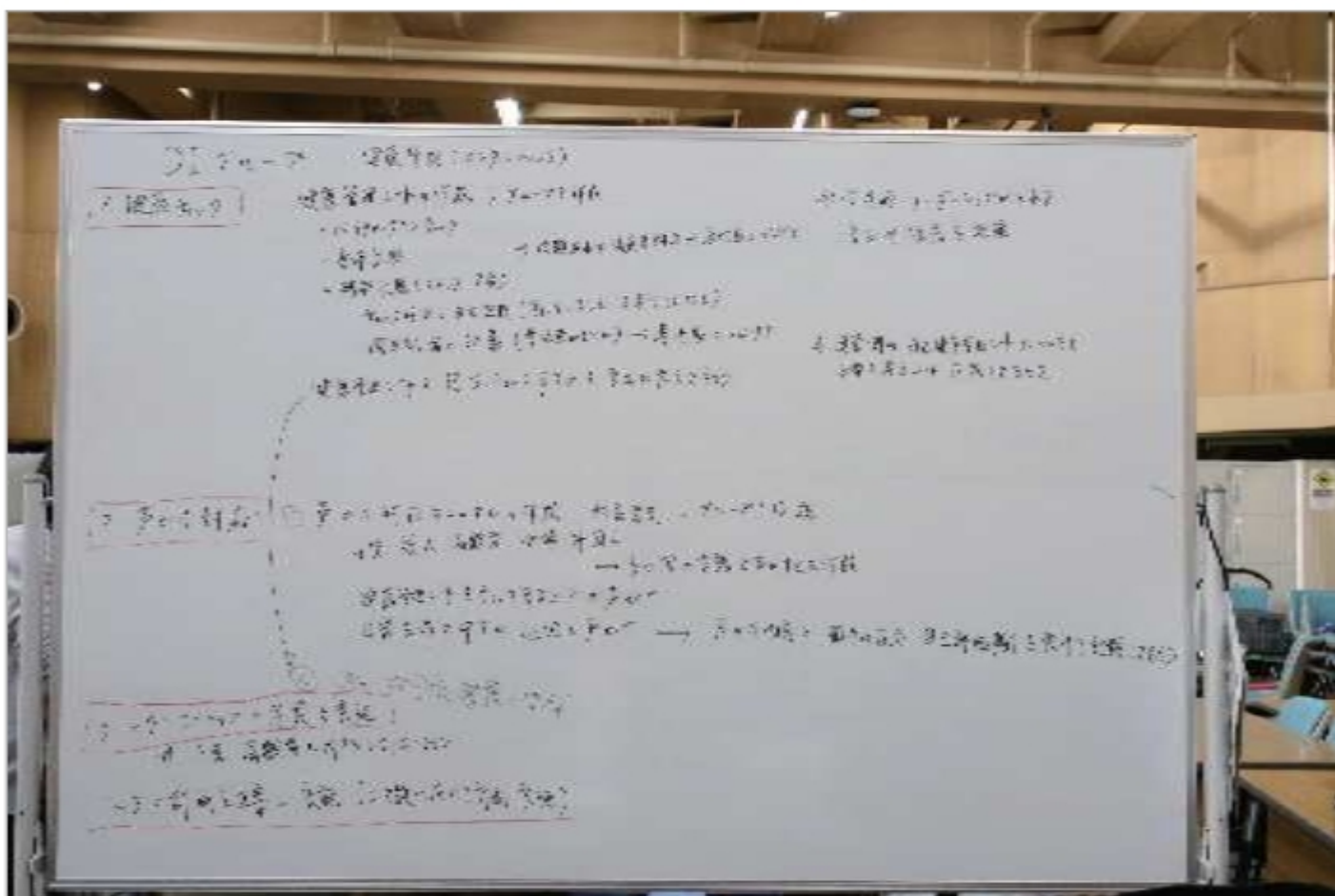
- ・健康管理シートを何回チェックする？
- ・声かけ対応者表の作成

③レクリエーションの考案・実施

- ・例) 小児、高齢者に対するレクリエーション

①~③の計画を立案し実施する

(コマ数に応じて計画・実施)



E チーム：テーマ3) 傷病者対応



■学習すること

<知識>

- ・病院の対応・計画を知る→病院との連携方法
- ・どのような災害があるか？→地震、大雨洪水
- ・学生が行う範囲を明確に→マニュアルの作成

<方法論>

- ・救急法・軽傷の対応→関連疾病
- ・対応可能・病院へ搬送するか見極める知識
- ・搬送方法

■体験すること

- ・必要物品、物はどこにあるか探索ツアー
- ・傷病者対応の場所確保・設営
- ・搬送方法・応急手当・救急法

■マニュアルの実証・検証

- ・チームワークの確認
- ・居住地（地方）での災害対応にも活用

■活動内容

- ・傷病者（軽症）対応を行う場所をつくろう
- ・見学ツアー
(物資はあるか？どこに？どんな場所？等)

傷病者対応

何を知っていればいいか？できればいいのか？

学習と体験

学生が行う範囲を明確に 対象者は誰？

マニュアル作り

学習すること

I 知識

- 病院の対応・計画を知る→病院との連携方法
- どのような災害がある？地震 大雨洪水
- 学生が行う範囲を明確に、必要な役割→マニュアルが必要

II 方法論

- 救急法・軽傷の対応→関連疾病の知識
- 対応可能・病院へ搬送するかの判断、見極めるための知識
- 搬送方法

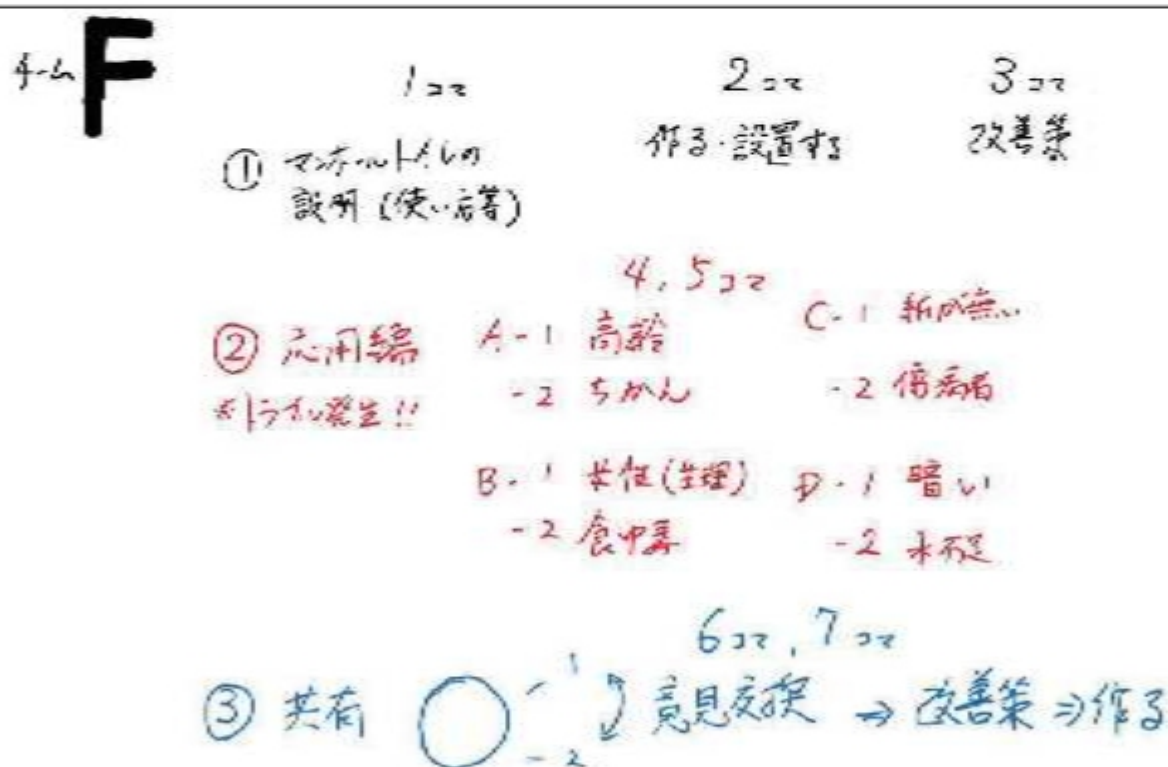
体験すること

- 必要物品、ものはどこにあるのか探索ツアー
- 傷病者対応するための場所(保健室)の確保・設営
- 搬送方法・応急手当・救急法
- CPR (AED) 三角巾 止血 骨折時固定

マニュアルの実証・検証

- チームワークの確認
- 居住地(地方)での災害対応にも活用できるように

- ①マンホールトイレの説明（使い方等を理解する）
 - ②実際に作る・設置する
 - ③問題点・改善策のディスカッション
- <応用編>
- ④グループ毎に小テーマに分け検討する
- 例) 高齢者
- ・高齢者が使用する際はどのような状態になるのか？
- 犯罪対策
- ・痴漢や盗撮等の犯罪行為をどのように防止、対処していくのか？
- ⑤ ④で考えたテーマを
実際に別グループが使用してみる
- 複数のグループ間で意見交換をする
 - 問題点・改善策のディスカッション
 - 問題点を把握したうえで再度作る



G チーム：テーマ1) トイレ設営



■新しい簡易トイレを作成しよう！

- ・既存のトイレ（マンホール含む）を作る、使う
- ・メリット、デメリットを見つける
- ・問題点を解消した「新しいトイレ」を作成する
- ・実際に使用してみる
- ・材料を減らし簡易化する

■汚物の処理を考えよう！

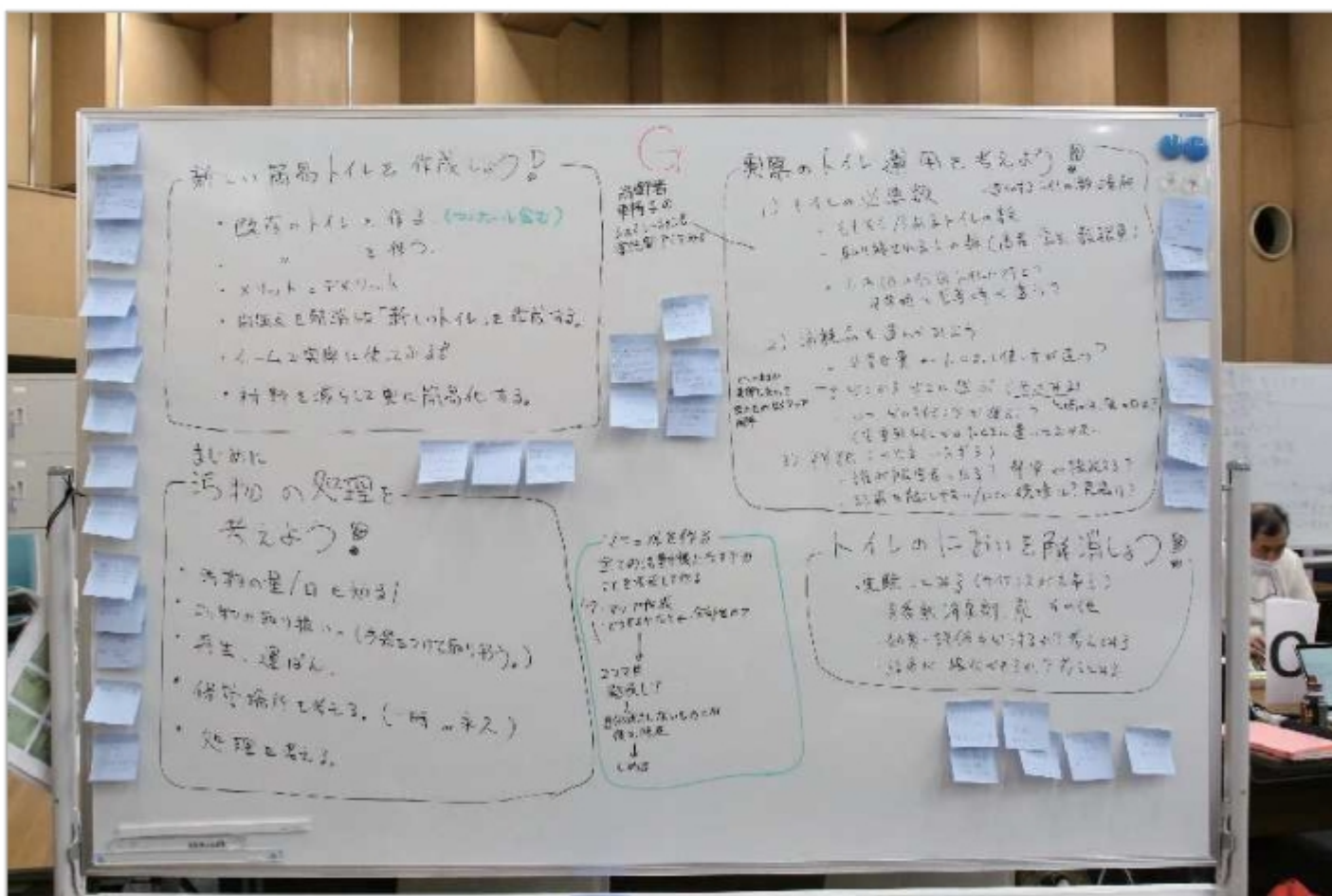
- ・汚物の量/日を知る
- ・汚物の取り扱い（手袋着用）
- ・再生、運搬
- ・保管場所を考える（一時的 or 永久的）
- ・処理方法

■実際のトイレ運用を考えよう！

- ・トイレの必要数
- ・消耗品を運んでみる
- ・防犯対策（のぞき、いたずら）

■トイレのにおいを解消しよう！

- ・実際に実験してみる



Hチーム：テーマ3) 傷病者対応



■災害発生時に学生ができること

- ①救護用品の把握・使用
- ②救護所設営
- ③ケア・フォロー（避難所から救護所へ橋渡し）

■①~③を学生がスムーズに実践する為には？

- ・ 物品リストの作成
- ・ マニュアル運用の練習
（病院作成マニュアルを学園が準備）
- ・ アセンブリIでコミュニケーション力をつける
（避難所の困りごとの把握、問診の
シミュレーションができるレベルまで力をつける）

■プログラム

- ・ 物品リストの作成
- ・ トリアージの体験
トリアージ時の搬送、
車いす、ストレッチャー移送の体験
- ・ 野営体験
- ・ テント張り
- ・ ダンボールベッド作り体験

Hチーム

- ・ 避難所設営
- ・ 救護所設営
- ・ ケア・フォロー

2021-8-5 アセンブリⅡ

マニュアル運用の訓練 （マニュアル作成は大学・病院）

学生にあらかじめ役割指定

A：救護用品の把握・使用

救護用品の数・場所の把握・移送
使用法の訓練

- ・ 投送法

トリアージ時の搬送法：

＝椅子・ストレッチャーの移送

- ・ 嘔吐手当

- ・ 手洗い

- ・ 血圧計

アセンブリIでも

習っている

B：救護所の設営

テント・ベッド・パーティションなどの設営訓練
野営体験

C：ケア・フォロー （避難所から救護所へ橋渡し）

避難者の困り事の把握・問診のシミュレーション
アセンブリIのコミュニケーションスキルの活用

Jチーム：自由テーマ



テーマ 1,2,3 以外にどのようなことが重要になってくるか

→どのような内容を学生にトレーニングしてもらうか

■食糧

- ・備蓄に適した食べ物のリサーチ
- ・炊き出しシミュレーション
(バッククッキング)

■情報収集

■外国人対応

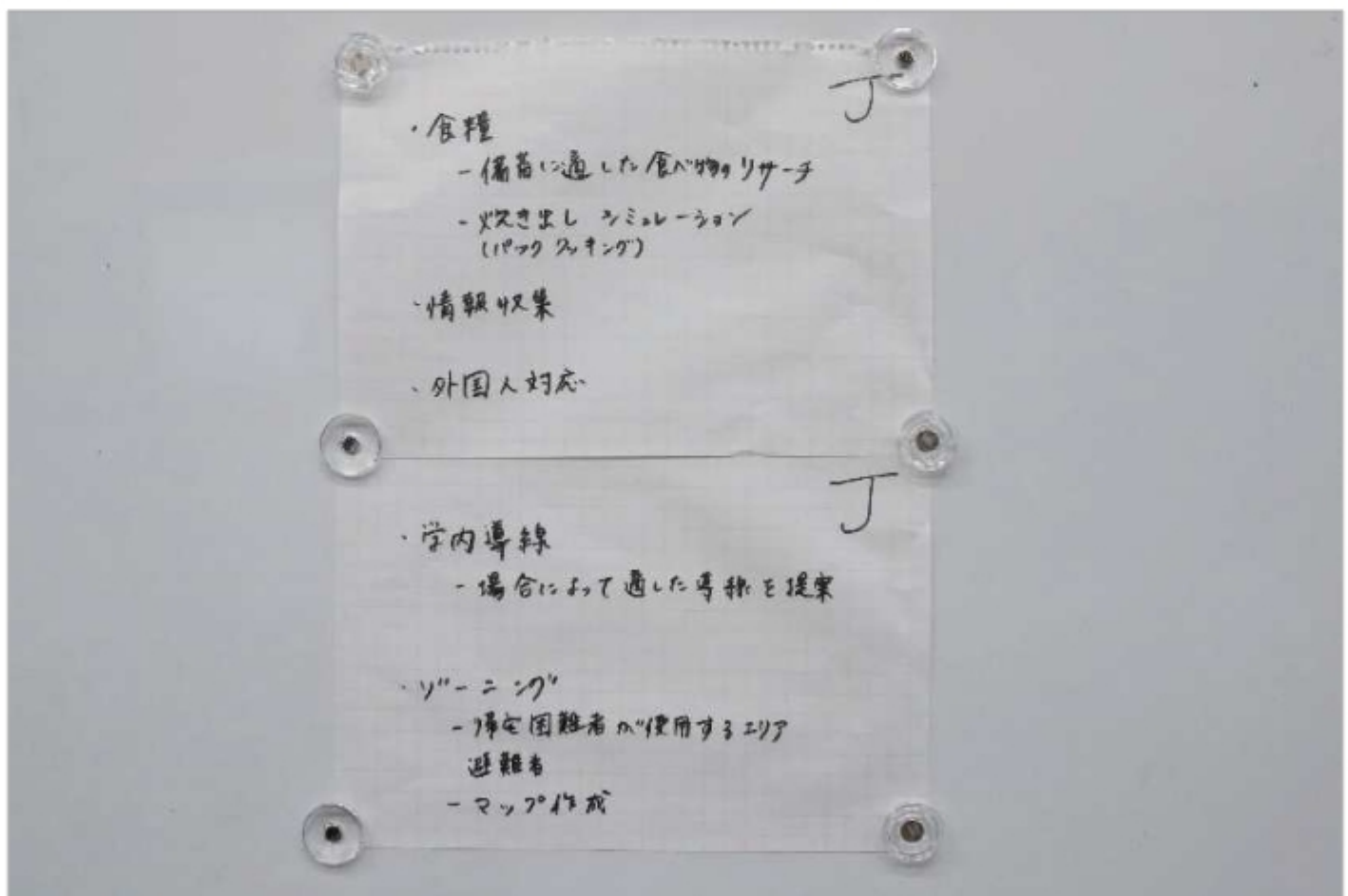
- ・外国人の方にご協力いただき
どのようにして意思疎通ができるか
セッションしてみる

■学内導線

- ・場合によって適した導線を提案する

■ゾーニング

- ・帰宅困難者、避難者が使用するエリア
感染対策、防犯対策を盛り込んだゾーニング
- ・マップ作成



K チーム：自由テーマ



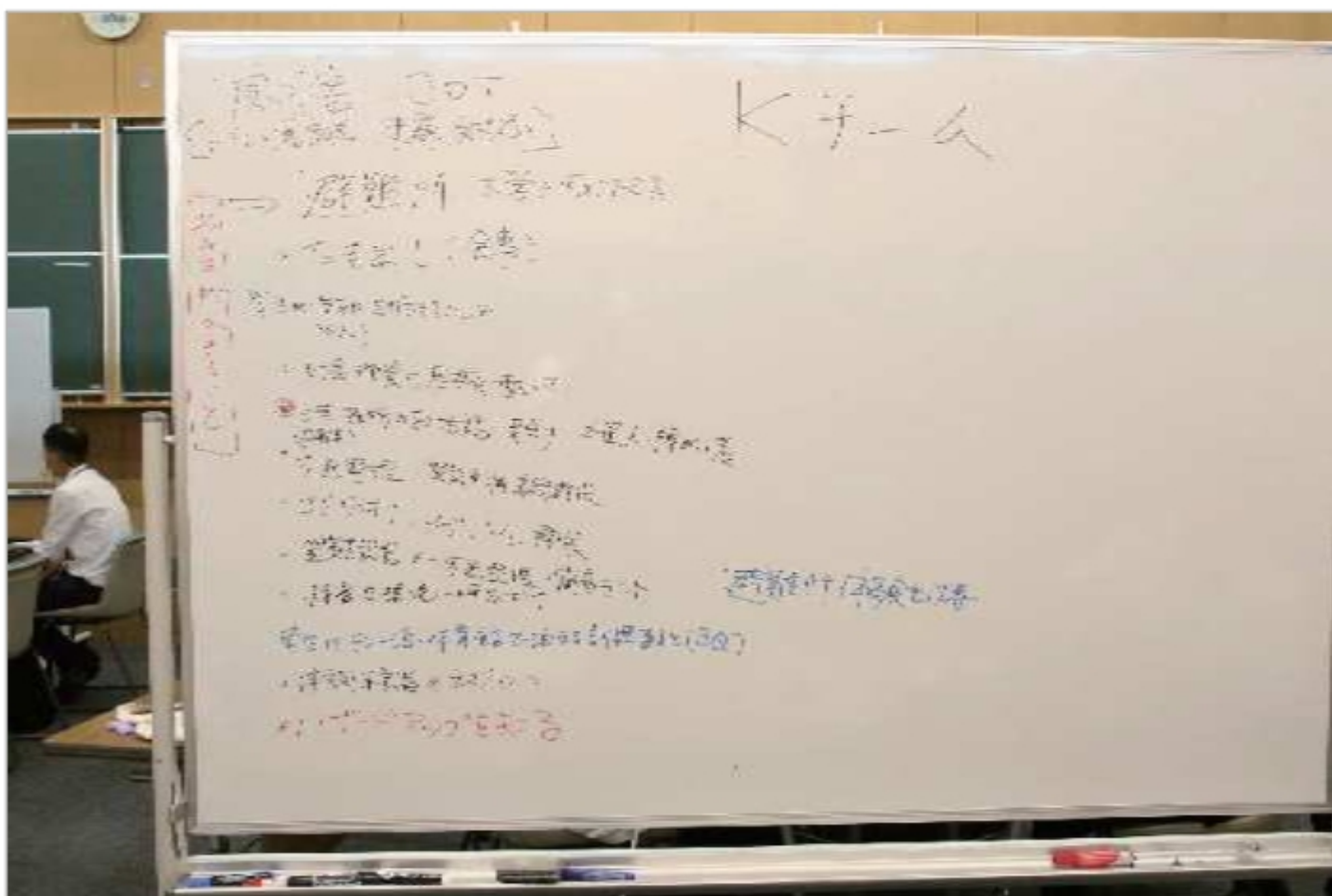
■避難所で学生ができること

- ・炊き出し（食事）
- ・支援物資の運搬、配布
- ・子供、年配者、障害者、外国人、動物のお世話・見守り
- ・交通整理（緊急車両導線確保）
- ・ゴミ片付け、ドブ、トイレ掃除
- ・避難所設営（区画整理・簡易テント）
- ・静音な環境、健康管理の呼びかけ

■プログラム

- ・学生は実際にテント・体育館で泊まる訓練をする
- ・避難所体験
- ・ハザードマップの作成等知識を蓄える

医療系大学ならではの弱者に視点を当てた
プログラムづくりをする



第2回アセンブリ教育ワークショップ

【Closing】



豊明市役所市民生活部防災防犯対策課 牧野玲様 講評



第2回アセンブリ教育ワークショップ

【Closing】

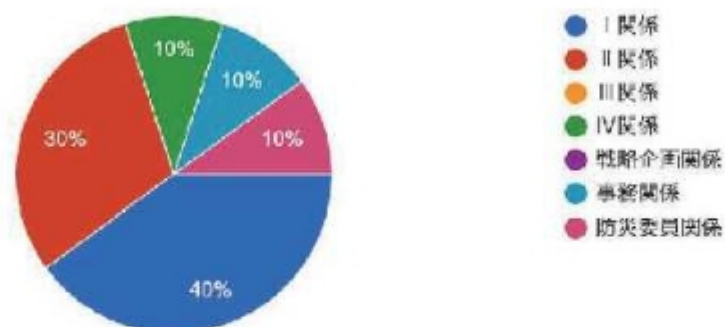


第2回アセンブリ教育ワークショップ

【アンケート結果】

今日のワークショップに参加したお立場を教えてください。アセンブリセンター関係と防災委員を兼任されている場合はアセンブリセンター関係の方でお答えください。

10 件の回答



「アセンブリ教育WS1のグループワークで抽出された諸問題」に対し、学生に行うアセンブリ災害教育について考えることができましたか？

10 件の回答



アセンブリ2で行われる予定である災害教育のコンテンツについて考えることができましたか？

10 件の回答



グループワークの発表とディスカッションを通じて、アセンブリ災害教育について理解が深まったと思いますか？

10 件の回答



アセンブリにおける災害教育に期待すること、あるいは不安なことは何ですか？（自由記載）

- 多くの学生を本当に動かして運営できるか。関わる教員が同じモチベーションで関わることができるか。
- 自身の知識が浅いので、どちらかというと学生とともに学んでいく気分ですが、それで良いのか不安になりました。しかしながら、これを機会に知識やスキルを得ていきたいです。
- 遠隔授業の場合、学生の取り組み姿勢が心配です。
- プロフェッショナルが少ない。

WS 全体の中で良かった点、あるいは改善が必要な点は何ですか？（自由記載）

- ホワイトボードをスライドで映す場合、拡大していただけるとありがたいです。
- スライドの画面が見づらいものがあつた。

WS に参加された感想・意見ををお願いします。（自由記載）

- 新たな見解を知ることができる機会だと思います。
- 全体的には有意義な会だったと思います。
- 今回のワークショップのように、教員が災害教育に対する意識を持つ機会を設けることが大切だと思います。
- 先生方に混ざって実際の授業の内容について考えるのは難しいかと思いましたが、今回の内容は自分にも身近なものであり、自分の立場で考えることができたと思います。ありがとうございました。